

在宅介護の“切札” 24時間訪問介護サービス！



無党派(無所属) 甲斐 よしと

甲斐) 第5期(平成24年4月～)介護保険計画から新規サービスとして、在宅介護の最後の切り札とまで言われた24時間訪問介護サービス(定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス)が普及せず、供給体制が整っていない現状だ。福祉保健部長) 平成28年度の実績では多い日でも3人の利用にとどまっている。

市域が狭く、高齢者の持ち家率の高い国分寺にこそ、合うサービス。介護離職を防ぐ切札にも甲斐) 一事業所で3人とどまっている現状は供給体制を伸ばしていく策を展開していないからだ。奈良県大和郡山市では23年の24時間訪問介護サービスの一事業者の利用者は101人中17人の介護度が改善した。特養の待機者が大きく減少している。特養でベッド中心の生活ではなく、自宅への回数無制限の巡回サービスと緊急時には夜間も駆けつけ、電話相談もできる。介護度5でも自己負担1割ならば3万円以下で受けられる。

福祉保健部長) 今の3人の利用人数が果たしてどうなのかというところは少し潜在的な需要を確認してみる必要はあると思っています。

甲斐) 24時間訪問介護サービスが、まず知られていない事、供給体制が万全でなければケアマネジャーも紹介するに至らない。利用者が一定数に達しないと事業採算性も得られない。行政がうまく政策誘導して事業者、ケアマネジャー等と研修、研究してゆかなければ道は開けない。福祉保健部長) 7期計画策定に生かしたく思う。成田・羽田等への長距離バス発着を

甲斐) 国分寺駅北口再開発によってできる駅前広場に中・長距離バス、特に羽田・成田空港へのバスの発着をさせられるはずだと求めます。まちづくり部長) 検討していきたい。

防災、介護、教育等 市の重要課題について



公明党 木島 たかし

1・災害対策にさらに万全を期すために

問) 災害時の被災者への心のケアに関する体制強化を。また、想定に基づく訓練等が必要では
答) 市の保健師、看護師、栄養士等(約40名)の体制で初動対応。今後定期的に連絡会を行う

閉会中の委員会等

委員会はどなたでも傍聴できます

第2回定例会終了後、平成29年第3回定例会までの間に開催する委員会等は下記のとおりです。

6月19日(月) 議会運営委員会
7月14日(金) 厚生委員会
7月24日(月) 文教子ども委員会
7月27日(木) 総務委員会
7月28日(金) 建設環境委員会
8月9日(水) 国分寺駅周辺整備特別委員会
8月30日(水) 代表者会議/議会運営委員会
市役所第1庁舎3階委員会室で午前9時30分から開催します。

*詳しくは、市議会ホームページをご参照ください。

問) 集中豪雨への備えをさらに強化すべき。傾斜地である国分寺崖線周辺の対策が重要。
答) 豪雨や台風接近時にパトロール等を強化する。危険箇所には新たな側溝設置等を行いたい。
2・在宅医療と介護の連携を確立するために
問) 連携相談窓口(10月設置)の概要は?
答) 市医師会に事業を委託。主に病院から退院する際に医療機関と連携し、在宅生活を支える仕組みを整える役割を担っていただく。

問) 利用者に寄り添った体制にするため、きめ細かな取り組みが必要。万全を期してほしい。

答) 多職種が連携して地域の支援体制を整える
3・ひとり親家庭等、生活困窮世帯の子どもへの学習支援は「教育」と「福祉」の連携を

問) 「受験生チャレンジ貸付」等、対象世帯への周知徹底を。また、利用者が年々増加している無料学習塾事業は子どもにとって学習のみならず大切な居場所にもなっている。充実を。

答) 大事な視点。より良い取り組みにしたい。

4・都立多摩図書館(泉町)周辺の安全対策

問) 多くの都民が来館。周辺の交通安全対策が必要。図書館隣の日本芸術高等学園前交差点に信号機設置を。また、駅からの点字ブロック等の整備を進め、視覚障害者への配慮を求める。

答) 都や警察署等の関係機関と連携し取り組む

5・ぶんバス(万葉・けやきルート)について
利用者が順調に増加。(現在1日平均で約230人が利用)市の地道な周知の努力を評価。その上で、今後も丁寧な対応を求めました。

パワースポットを活用 してまちの魅力発信を



国分寺政策市民フォーラム 及川 妙子

1. 都立多摩図書館の来館者は1日で平日600人、土日1300人。図書館前の横断歩道が通学路になっているが交通量も増えて危ないので対策をしてほしい。→小金井警察と相談する。

2. 国3・2・8号線のオーバースタップを北側から自転車を通ると左の一通の側道とぶつかる。目隠し板があり見通しが悪い。→東京都と相談する。

3. 待機児童について=今年4月で92名。国分寺市は施設数の充足率は都内ナンバー2だが入園率が低く待機児童も去年から10名しか減っていない。小規模保育所を検討していただけることは一歩前進だ。保育コンシェルジュも導入されるので細かいアフターケアをお願いしたい。

4. 障がい者施策について=(1)職員対応要綱の周知方法は?→要綱に留意事項、状況別の合理的配慮の例、障害種別ごとの特徴を添付した。今年度職員むけの研修会を行う。(2)相談窓口の適正な運用をお願いしたい。(3)障害福祉ガイドブックの評判が良いが一般市民むけのパンフレットも作ってほしい。→東京都が作成した最新のパンフレットを市内施設に配架したりHPに掲載していく。(4)障害者差別解消自立支援協議会を設置してほしい。→情報収集して研究した上で設置の可否について考える。(5)平成30年6月にオープンする地域生活支援拠点の整備について→2つの拠点で面的整備となる。

5. まちの魅力発信について=武蔵国分寺は東西南北を四神に守られた四神相応の地でパワースポットといえる。瓦を埋めて絵を書き「パワー瓦」にしたり、「一葉松」という悲恋物語もあり、パワースポットに松を植えてはいかがか。

6. 防災推進委員会、ごみ減量等推進委員会、防犯まちづくり委員会はボランティア組織だが

活動費の捻出を考えていただきたい。

ハラスメント防止等市の指針 市民に公表を



国分寺政策市民フォーラム 皆川 りうこ

★地域福祉計画～潜在的な課題への取り組み～
皆) 引きこもりに関する連続講座を開催し家族会の立上げを。相談窓口対応のため研修は大事。子ども家庭部長) 市民への理解が進むような講演会を開催する。研修会実施と研修会へ参加。

★性別に起因する暴力や人権侵害の根絶

皆) この10年でDVは5倍以上に増加との新聞報道。子の前での面前暴力は、大人になって加害者になるといわれ世代間連鎖は深刻な問題。時間がかかるが意識改革も重要。市では人権侵害予防の支援として「国分寺市ハラスメント防止等に関する指針」や「男女平等の視点による表現のガイドライン」も作成した。市民にも認識できるよう、これら市の取り組みを公表せよ。市民生活部長) 気づきや意識の醸成には役立つ。誤解の無いよう位置づけを説明し公表したい。

★いきいき農園事業～子どもの成長に農業体験は有意義なもの。農・福・教連携で進めよ～

皆) 事業開始6年で初めて障害者ゾーンの申し込みがゼロの理由は?今後、対象範囲の拡大と面積要件の見直しなど条例改正も視野に入れよ。市民生活部長) 現在再募集中。地理的な問題、負担感がある等の理由。抜本的な見直しが必要。

★東日本大震災による避難者への支援継続を

皆) 震災から6年経過し皆さんの生活課題に変化がある。H30迄他減免の期限が定まっている施策については支援の継続を国にも求め、市としても支援せよ。福祉保健部長) 支援策継続は周辺自治体とも連携し、対応を図っていききたい。

★「人材育成実施計画」人事考課等、職員の声も聴き納得される制度構築に向けて取り組み。

皆) 「そうだね、うんうん。」との電話対応は問題ないか?今一度、市として確認と改善を。総務部長) 全庁的な取組で責任ある対応をする。

保護者の教育費軽減を 介護予防を充実せよ



日本共産党国分寺市議団 中山 こう

《就学援助の拡充を》

問) 入学準備金について、①支給額(小40,600円、中47,400円)、②支給時期(現在7月頃支給)ともに、必要となる時期に支給を。

市) ①学用品費の支給とあわせてこのままお願いする、②中学校は今年度から実施するが、小学校は検討を重ねていきたい。

*必要な額を必要な時期に援助できるように、また、制度の周知徹底を求めた。

《在宅人工呼吸器療法患者に対して

非常用発電機等の設置補助を》

問) 難病以外の方への補助が全くされていない。都の補助制度を活用し、災害時等に備える非常用発電機等の設置をすすめるべき。

市) 今年度をめどに、どこまでできるか検討する。把握については関係機関との連携を検討。

*命にかかわる問題。早急な対応を求めた。

《熊野神社通りの安全対策を》

次ページに続く▶